

# どこまでできたの？ 交流館

歴史と未来の交流館整備通信 vol. 8



「東海村の歴史や文化の発信拠点」「子どもたちの体験や遊びを通じた活動拠点」として幅広い世代が交流し郷土愛を育み、にぎわいをつくる生涯学習の拠点施設となる「(仮称)歴史と未来の交流館」。今回は、4月からの交流館の機能や併設カフェ、展示室2についてお知らせします。

【問い合わせ】生涯学習課(仮称)歴史と未来の交流館整備推進室(☎282-1711 内線1424)



## 開館日が7月24日(土)に決定！

「(仮称)歴史と未来の交流館」の開館日が7月24日(土)に決定しました。開館までの残り136日、村の歴史等が学べ、幅広い世代が交流できる施設となるよう準備を進めていきます。なお、開館日にはオープニング式典の開催を予定していますので、楽しみにお待ちください。

## 開館に先立ち、4月から交流館での事務をスタートします

4月1日(木)から、生涯学習課(役場行政棟4階)および青少年センター(中央公民館内)が「(仮称)歴史と未来の交流館」へ移転し、先行して事務を開始します。移転後の問い合わせ先は右のとおりとなりますので、お間違えのないようお願いします。

※▽4月から、窓口(事務室エリア)にお越しの場合のみ入館できます。開館日までは、展示室等へは入れません。▽暫定駐車場を整備しているため、来館の際は文化センター駐車場をご利用ください。

### 【交流館へ移転するおもな業務内容】

▽埋蔵文化財照会▽青少年活動支援▽文化スポーツ関係各種手続き▽社会教育施設管理——ほか

### 【4月からの問い合わせ先】

- 生涯学習課(代表)(☎287-0851)
- 生涯学習課ファックス番号(FAX)287-7060

## カフェの名称&ロゴマークが決まりました♪

交流館の開館と同時にオープンを予定している併設カフェ(事業者/有限会社カピアン)の名称が「KUROMATSU COFFEE」に決定しました。また、ロゴマークはコーヒー豆、村の木「クロマツ」、村が面する太平洋から作成されており、東海村のカフェであることが一目で分かるデザインに仕上がりました。このロゴマークのように、村民の皆さんに親しみを持ってもらえるカフェになることを期待しています。



▲ロゴマーク



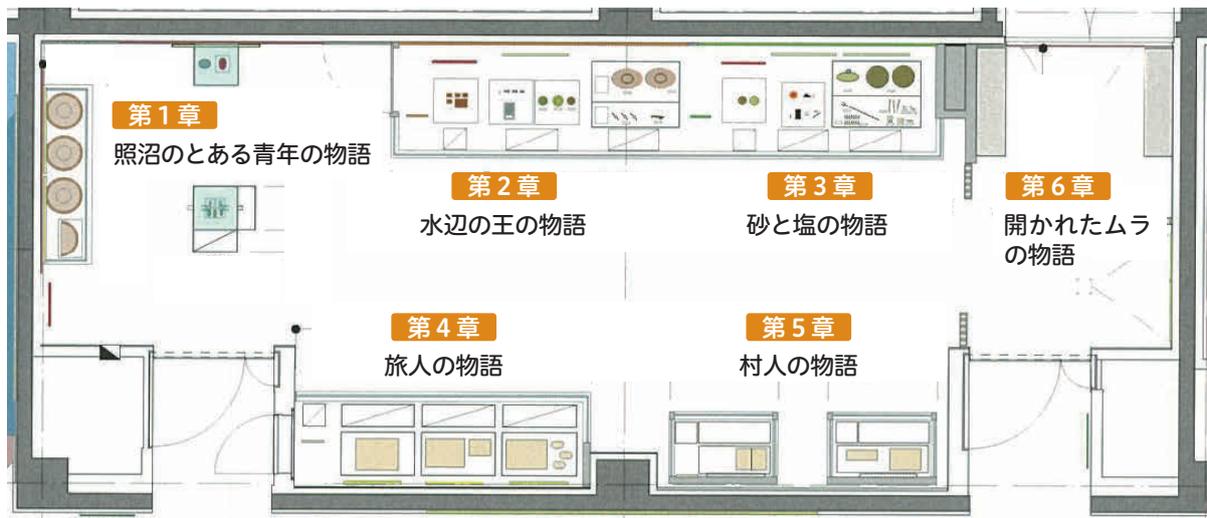
▲カフェ内観



▲カフェ外観

## 展示制作 ～展示室2にズームイン!～

「展示室2」では、東海村の自然環境の中で展開されてきた人々の歴史について展示します。「交流」を全体のテーマとし、展示室全体を一冊の本に見立てて、6つの展示テーマを物語のように表現することで、本村の歴史に親しみを持ち、より身近に感じてもらえるよう工夫しています。それぞれの物語は、調査結果や歴史資料・出土品などの展示品から読み取ることができる情報を基に、専門家で構成する展示監修委員会の協力を得ながら、学芸員(職員)が作成を進めています。



【各テーマ(物語)の概要を一足お先に紹介します!】

### 第1章 照沼のとある青年の物語(縄文時代)

照沼に住んでいる青年が他地域との交流を通して新たな文化を創り、ムラを発展させる様子を展示

### 第2章 水辺の王の物語(古墳時代)

太平洋に面した地理的特徴を生かし、海を介した交流や、海や川に関わる生活を営む人々にスポットを当てた展示

### 第3章 砂と塩の物語(中世～江戸時代初期)

千々乱風伝説※の残る海岸部にある塩作りのムラの展示

### 第4章 旅人の物語(中世～現在)

水辺の景勝地・聖地を訪れる旅人にスポットを当てた展示

### 第5章 村人の物語(トピックス展示)

村で暮らす人々について資料を替えながら展示

### 第6章 開かれたムラの物語(近代～現代)

関連書籍や村民の声の記録から、現在の東海村をつくらしている人々の思いと交流を描いた展示

※千々乱風(ちぢらんふう)伝説とは…  
ひたちなか市や東海村の海岸沿いに伝わる、かつて何日間も大風が吹き、ムラが砂の中に消えてしまったという伝説です。



## 【交流館開館までのスケジュール】

R 2	R 3						
12	1	2	3	4	5	6	7
	●竣工	●文化財移転		●事務機能先行開始(R 3.4.1)			●開館
		●生涯学習課・青少年センター移転			●オープニング式典・イベント準備		
		●備品搬入、設備工事		●開館準備(施設利用ルール検討、活動準備等)			
	●展示物制作	●展示制作物設置工事		●展示品設置・開館記念特別展準備			
		●カフェ営業準備(内装工事、メニュー等)					●カフェオープン
			●旧中央公民館解体工事			●暫定駐車場整備	

7月24日(土)